

相模原マンドリン倶楽部

第20回定期演奏会



2004年10月11日(月) 14:00開演

グリーンホール相模大野 大ホール



ご挨拶 ♪

部長 飯田正男

人生において、これが原点だ！と叫べる日をどのくらい体験できるでしょうか。「感謝・感激」を幾つ持つことができるでしょう。1977年3月に県立青少年会館で相模原マンドリン倶楽部が誕生して、今ここに第20回定期演奏会を迎えることが出来ました。音楽に費やす時間がとっても貴重だからこそ、自分だけ楽しむことを目的にしたくない。演奏を聴いていただける中で、会場全体の感動を皆様と共に感じる時こそが、「至福の瞬間」なのです。演奏者自身だけで完結してしまわない、その「感謝と感激」を味わっていただけると信じています。今日が人生にとって一つの原点と呼べる日になるよう、ご来場の皆様方にも楽しんでいただけたらと思います。

本日の演奏会に様々な御支援・協力をいただきました方々に衷心より御礼申し上げます。本当に御多用の中ご来臨いただきまして誠にありがとうございました。

活動レポート ♪

2003.5.24	(土)	第19回定期演奏会	グリーンホール相模大野
6.7	(土)	2003年度定期総会	総合学習センター
9.6	(土)	第9回部内発表会	サン・エールさがみはら
11.22	(土)	開館10周年記念コンサート	並木こどもセンター
12.13	(土)	クリスマス会(納会)	総合学習センター
2004.4.25	(日)	神奈川マンドリンフェスティバル	栄公会堂
5.22	(土)	2004年度定期総会	大野中公民館
9.11~12	(土・日)	合宿	サンピア多摩
10.2	(土)	強化練習	グリーンホール相模大野
10.11	(月)	第20回定期演奏会	グリーンホール相模大野

♪ 演奏曲目 ♪

第一部

指揮 大矢 利夫

☆ 歌劇「劇場支配人」序曲

作曲 W.A.モーツァルト 編曲 G.F.ポーリ

☆ 喜歌劇「メリー・ウィドウ」より

作曲 F.レハール 編曲 喜多満鳥

1. 導入部 2. ヴィリア 3. マーチ 4. ワルツ 5. ロマンズ 6. フィナーレ

☆ 歌劇「詩人と農夫」序曲

作曲 F.v.スッペ 編曲 喜多満鳥

♪ ♪ ♪

第二部

指揮 小林 淳子

☆ 弦楽の為の三楽章 トリプティーク

作曲 芥川也寸志 編曲 伊藤敏明

1. アレグロ 2. アンダンテ (子守唄) 3. プレスト

☆ 田園写景

作曲 S.ファルボ

1. 黄昏の踊り 2. セレナテルラ 3. 祭りの朝

☆ ノクターン (夜曲)

作曲 S.コペルティニーニ

☆ 英雄葬送曲

作曲 C.O.ラッタ

♪ ♪ ♪

♪ 曲目紹介 ♪

歌劇「劇場支配人」序曲

本歌劇の台本は「後宮からの誘拐」を書いたシュテファニーによるもので、モーツァルト自身「一章の音楽つき喜劇」と呼んでおり、1幕10場からなります。物語は、劇場支配人が興行目的の劇団の組織を計画しているところから始まり、そこに自薦、他薦の俳優や歌手がやってきてテストを受けますが、配役をめぐる言い争いになり、テンヤワヤになって、劇場支配人は仕方なく劇団作りの中止を宣言。やがて芸術の名誉のために皆が和解し、大団円となり幕を閉じます。音楽は序曲の他、7章、8章にアリア、第9場に三重奏、終場に四人の歌、と四曲があるのみです。

本序曲は、「フィガロの結婚」序曲と肩を並べるもので、交響曲の第1楽章にみられるような、厳格なソナタ形式に基づいており、第1主題、第2主題が華々しく展開されます。

喜歌劇「メリー・ウイドウ」より

フランツ・レハールは1870年ハンガリーに生まれ、プラハの音楽院卒業後、師のドヴォルザークの勧めもあり、作曲家を志しました。ワルツ「金と銀」で、最初に世に認められましたが、1905年手がけた喜歌劇「メリー・ウイドウ」は大ヒットとなり、喜歌劇「こうもり」と共にウィンナ・オペレッタの代表作に数えられました。その物語は、アンリ・メイヤックの戯曲「大使館付随員」を下敷きに書かれたもので、好きなくせに好きだといわない幼な友達のダニロと、それを言わせようと秘術を尽くす大富豪の若き未亡人ハンナとの大人の恋物語です。そのメロディは憂愁を秘め、甘美、情熱的、官能的、大人の男女の機微など、聴く人に切なくやるせなさを訴えています。

代表作には本曲の他、「パガニーニ」「ロシア皇太子」「フリーデリーケ」「ジュディッタ」等があります。

本曲は、歌劇の音楽の中から親しみのあるいくつかのメロディを取り出し、マンドリンオーケストラ用として、六つの部分「導入部」「ヴィリア」「マーチ」「ワルツ」「ロマンス」「フィナーレ」に取りまとめたものです。中でも「ヴィリア」「ワルツ」で演奏されるメロディは、特によく知られています。

歌劇「詩人と農夫」序曲

スッペは、1819年ユーゴスラビアのスパラートで生まれました。ウィーンでゼヒターとザイフリートに作曲を学び、オペレッタの作曲家・指揮者として、ウィーンのヨーゼフ・シュタット劇場、アン・デア・ウィーン劇場、レオポルド・シュタット劇場に専属しました。生涯に36のオペラ・オペレッタ、190を超える道化芝居など劇のための音楽を書きました。代表作には本曲の他、「スペードの女王」「美しきガラテア」「軽騎兵」「ボッカッチョ」などがあります。彼の作品には、ウィーン風の優雅で軽妙な趣味と、イタリア風の美しい旋律が随所に含まれていて、当時のウィーン人の好みに合致し、大好評を博しました。

「詩人と農夫」は歌付きの喜劇ですが、劇自体は今日ではほとんど上演されず、劇中の旋律にて構成された序曲だけがよく演奏されます。曲は前奏に続いて、詩人の主題をマンドセロが優雅に奏でます。緊迫感ある行進曲に続いて農民踊りをワルツで奏で、これらを繰り返して終わります。原曲は管弦楽の作品ですが、マンドリンオーケストラでも聴く者の心を捉える作品です。

弦楽の為の三楽章 トリプティーク

芥川也寸志は、1925年小説家芥川龍之介の三男として生まれ、1989年まだ働き盛りの年齢であるにもかかわらず、64歳で他界した作曲家です。東京音楽学校で伊福部昭氏に師事し、映画音楽やバレエ音楽など幅広いジャンルの作品を書き残しています。また、指揮者としても活躍し新交響楽団を組織したり、宮城フィルハーモニーオーケストラ等アマチュアオーケストラの育成にも情熱を傾けていました。

本曲は、当時NHK交響楽団の指揮者を勤めていたクルト・ヴェスの依頼を受けて、アメリカ演奏旅行のために1953年に作曲されました。タイトルのトリプティークは教会の祭壇などにみられる三連画のことを意味しています。尚、1953年12月、ニューヨークカーネギーホールで初演されています。

田園写景

ファルボは、1872年イタリア・シチリアに生まれ作曲家の他、吹奏楽の指揮者としても活躍し、マンドリンのために沢山の佳曲を残しています。非常に控えめで誠実な性格で、歩く時はステッキを携え、大変優雅な物腰の紳士であったそうです。この曲は1911年イル・プレットロの作曲コンクールで金牌を得ています。当初は「田園組曲」と題されていましたが、後に改作され当時のマンドリン界に一石を投じた作品とされています。3つの楽章は、すべて急速調で終止しています。

ノクターン(夜曲)

コペルティニは、1879年イタリア・パルマに生まれ、1952年フィレンツェにて逝去した作曲家・音楽評論家です。パルマ大学の物理科学数学科を卒業後、音楽学校で作曲を学び、後にフィレンツェの国立音楽院で教授を勤めました。この「夜曲」は1905年の作であり、1926年にイル・プレットロより出版されています。本邦マンドリン界の草分けである武井守成氏は、「静夜を思わせる幽遠な旋律が、各パートの強弱の交錯と相俟って、たとえようもなく美しい情景を描き出している」と賛辞を贈っています。

英雄葬送曲

作曲者ラッタについては、イタリア・ポローニャの北東に位置するフェルラーラに生まれ、当地で没した事、オペレッタの作曲等をしてきた事以外の記述はほとんど残っていません。この曲は第二次世界大戦の最中1941年にイタリア・シエナに於いてのマンドリンオリジナル作曲コンクール第2位受賞作品です。当時は1922年以来独裁政治を続けてきたファシスト(1919年に結成されたムッソリーニを党首とするイタリア国粋党)が最強の時代で、このコンクールもファシストの一家機関であるL'O-N-Dが主催したものです。1940年、41年二回とも大きな成果をあげて多くの優れた作品が入選しましたが、枢軸側の敗戦によってイタリア斯学界も大打撃を受けて復興するには至らず、これらの名曲も出版されることなく眠ったままになっていました。1974年渡伊した同志社大学マンドリンクラブOBの岡村光玉氏は、これらの名曲を保持するシエナのアルベルト・ポッチ氏に懇願してコピーを譲り受けることができ、今日に至っています。本曲は第二次世界大戦中、枢軸側の重要な根拠地であったアフリカ北部に位置するリビアのトブルクの陥落に寄せた悲壮な挽歌です。トブルクは第二次大戦の枢軸側(独・伊)と連合軍(英・米・仏)との間で、再三激しい攻防が繰り返された所です。両陣営の勝敗を決する戦場であったので、トブルクの陥落はイタリア軍の大きな痛手となりました。なお、曲の冒頭には「トブルクで没した勇者達に」と記されています。原題のEpicedioは古代ギリシア詩における「葬送歌」「哀悼歌」と言う意味です。

参考 中野 二郎 著「いる・ぶれとろ」・南谷 博一 監修 「マンドリン事典」

20回を迎えて～

定期演奏会 過去の演奏曲目 (抜粋)

- 第1回 (1977.3) 砂山・オーソレミオ・シバの女王・涙のトッカータ・旅愁・佐渡おけさ
組曲第一番ロ短調・古戦場の秋・さくら貝の唄・フォスター歌曲集
- 第2回 (1977.12) オリーブの首飾り・涙のカノン・マイウエイ・黒田節・斉太郎節
セレナーデ・水車小屋の恋人・A-moll
- 第3回 (1978.12) 夏の日恋・愛の賛歌・ヴィオレッタに捧げし唄・峠の我家
黒い瞳のマンボ・木曾節・バグダッドの太守・交響曲「北夷」
- 第4回 (1982.3) アイネクライネナハトムジーク・愛の喜び・丘を越えて・トロイカ
二つのギター・過去への礼賛・マンドリンの群れ
- 第5回 (1983.6) ハンガリア舞曲第5番・カヴァレリアルスティカーナの間奏曲
真珠採りの唄・マイアミビーチルンバ・踊りと唄・熱情・海の組曲
- 第6回 (1984.10) G線上のアリア・スペイン舞曲第5番・ペルシャの市場にて・枯葉
緑の地平線・ポーリュシカポーレ・月ありき・エカーブの嘆き
- 第7回 (1986.5) コルドバ・カルメン組曲第三番・セビリアの理髪師・ラ、コンパルサ
タイスの瞑想曲《独奏》・チャルダッシュ《独奏》・レナータ
- 第8回 (1987.11) ソルベイグの唄・リュートの為の古代舞曲・童謡ファンタジー
チゴイネルワイゼン《独奏》・交響的前奏曲・パストラルファンタジー
- 第9回 (1989.9) 喜歌劇「メリーウィドウ」より・音楽物語「マッチ売りの少女」
序曲ニ短調・セレナーデ風ガボット・グランドシャコンヌ
- 第10回 (1991.2) バロック風「春が来た」・組曲「ドラゴンクエストⅠⅡⅢ」より
音楽物語「人魚」・セレナータ・ガランテ・古城の伝説・セレナーデ No2
- 第11回 (1992.9) ハンガリア舞曲第1番・序奏とファンダンゴ・久石譲アニメの世界
愉快的仲間・シレーネの歌・英雄葬送曲
- 第12回 (1994.5) スラブ舞曲第10番ホ短調・弦楽の為のセレナーデ・ブランデンブルグ
協奏曲第3番・ディズニーファンタジー・華燭の祭典
- 第13回 (1995.6) 粉屋の踊り・火祭りの踊り・北欧のスケッチ・ミリタリア
組曲「白鳥の湖」より・「舞踊風組曲 第2番」作品21
- 第14回 (1996.9) 歌劇「椿姫」より第1幕前奏曲・バレエ組曲「くるみ割り人形」
ジェノヴァ序曲・イルポート・組曲「アルジェリア」
- 第15回 (1997.11) 英雄行進曲「イタリア」・《我が祖国》よりモルダウ・マンドリンオー
ストラの為の「鶴翼之詩」・組曲「中世の放浪学生」・瞑想曲「夢の魅惑」
- 第16回 (1998.11) シンフォニア「仮面」・スペイン第1組曲・亡き王女の為のパヴァーヌ
「はかなき人生」よりスペイン舞曲・ノスタルジー・マンドリン芸術

- 第17回 (2000. 5) 歌劇「ザンパ」序曲・皇帝円舞曲・マンドリンオーケストラの為のじょんがら・交響的前奏曲・優雅な半仮面の乙女達・スラブ行進曲
- 第18回 (2001. 9) 「エグモント」序曲・独創的奇想曲「熱情」・「カルメン」組曲
弦楽の為のセレナード
- 第19回 (2003. 5) 歌劇「フィガロの結婚」序曲・映画「タイタニック」より・黄昏前奏曲
シリウスへの帰還・組曲「ナポリの風景」・星空のコンチエルト

「当倶楽部が目指すもの」

(第20回定期演奏会の通過点を迎えて)

技術委員長 福谷隆治

スポーツの祭典であるアテネオリンピックが日本人選手の大躍進・大活躍と共に無事成功裡に終わり、芸術の秋を迎えた今日この頃ですが、本日は三連休の貴重な一日を当倶楽部の定期演奏会にお越し頂き、誠にありがとうございます。

当倶楽部では、練習はもとより、指揮者、各パートトップ等で構成される「選曲委員会・技術委員会」を設けて、定演の選曲・技術の向上等を熱心に審議しております。その結果、50人を超える大オーケストラの強みを如何なく発揮できる「オリジナル曲」を「核」として、取り組んで来ておりますし、今後もそのポリシーは不変であります。マンドリン合奏のために作曲された「オリジナル曲」は撥弦楽器の特色を生かした譜面からなるため、弾きやすく、情感豊かな音色と響きを最大限に表現できる「ジャンル」であります。また、限らない可能性を求めて「クラシックアレンジ曲」にもチャレンジしております。なお、映画音楽を始めとした「耳慣れた・聴きなれた曲」を主としたポピュラーコンサートを定演とは別枠で、過去に数回「サン・エールさがみはら」で開催したこともありましたが、それはそれとして今後も機会があればチャレンジしていく所存です。

演奏会当日は、「お客さま・指揮者・演奏者」が三位一体となったときに、はじめて心打たれる感動したコンサートを味わっていただけるものだと思っております。ファンあって各種のスポーツが成り立つように、「相模原マンドリン倶楽部」の演奏が好きで、聴きに來てくださる「お客さま」の存在は、我々部員の大きな励みとなっております。大勢の「相模原ファン」でコンサートホールが埋め尽くされるよう「全身全霊」で演奏し、「美しく・心に迫る音楽」が、舞台から客席の皆様へ伝わるように、研鑽・努力してまいりますので、今後とも宜しく当倶楽部に対するご理解とご支援をお願いいたします。

Members

◎トップ ○サブトップ

Conductor

大矢 利夫 小林 淳子

1st Mandolin

◎窪田 成子 ○木田 絹子 藍澤 桃子 饗庭 裕子 梅沢 典子 江原 徳至 石本 友子
川崎 紘子 仁尾 真里 濱地 すぎの 日置 和弘 山崎 了三

2nd Mandolin

◎福谷 隆治 ○池田 百合子 綾部 文子 大矢 利夫 野沢 孝広 樋口 忠雄 樋口 三朗
藤枝 春代 舟田 徳穂 本田 博子 吉野 昌重 渡辺 礼子

Mandola tenore

◎寺田 美千代 ○森 順子 大熊 友子 岡林 誠士 戸田 節子 長澤 直子 笛木 和美
古田 栄治 水野 和則 峯田 福代 宮下 和子

Mandolon cello

◎中井 顕成 ○井上 昌子 飯田 正男 市川 久美子 金澤 葉子 小林 淳子 錦戸 民子

Mandolone

宮本 皓永

Guitar

◎原田 治 ○宮本 紀子 池上 由子 石本 久博 加登 文子 田中 厚子 長沢 久美
新田 美佐子 柳生 秀人 和田 真紀子

Contra bass

◎錦戸 雅子 ○鈴木 保彦 佐藤 尚也

Percussion

高野 幹子 (賛助)

司会 矢崎 ひとみ (賛助)



相模原マンドリン倶楽部専務

飯田正男

E-mail mjthriida@bg.wakwak.com

印刷・長谷印刷 表紙イラスト・しらとあきこ